

地震リスクマネジメントと事業継続性に関する小委員会 WG3（第1回） 議事録

日時 平成20年10月28日（火） 15:00～17:00
場所 土木学会 C会議室
出席者 委員長、副委員長：吉川、兼森
WG3メンバー：岸下、広中、福岡、山川
他WGメンバー：小路（WG2）、中村（WG2） 以上8名（敬称略）
配布資料 資料1 WG活動に対するメモ

議 事

1. WG3メンバーの確認

- ・WG3「BCPの現状と課題」のメンバーは、次の6名であることが確認された。

大林 厚臣	慶応義塾大学大学院 経営管理研究科
岸下 崇裕	(株)フジタ 技術センター カスタマープロジェクト室
中野 晋	徳島大学 環境防災研究センター
広中 良和	(株)イー・アール・エス リスクマネジメント部
福岡 淳也	日本技術開発(株) リサーチ・エンジニアリング事業部 耐震・保全グループ
山川 和弘	日本工営(株) 中央研究所 総合技術開発部 構造解析 G

2. WG3の活動方針、スケジュールについて

- ・資料1に基づき、出席者全員がそれぞれの考えを述べ、これに基づき今後の活動方針やスケジュールについて討議した。
- ・出された意見、キーワードは以下のとおり（順不同）。
 - ✓ 一般的にBCPが扱う対象は広いものの、本小委員会が地震工学委員会の下部組織であることを考えれば、対象は地震に特化すべき
 - ✓ WG3が対象とするテーマである「BCPの現状と課題」の性格上、ガイドラインのような実務的なアウトプットは困難か
 - ✓ 研究小委員会なので、アカデミックな側面を強く出すべき
 - ✓ 国などのこれまでのBCPに関する取り組みが必ずしもそうではなかったため、エンジニアが貢献し、牽引するくらいの気概でやりたい
 - ✓ 内閣府からなどこれまでに出されたガイドラインに拘らず、そこに内在する課題を挙げて、より現実的なBCPにするためにはどうしたらよいかを考えてはどうだろうか
 - ✓ 一般企業では「事業継続」という用語を、公的機関では「業務継続」という用語を使うことが一般的。本WGではどちらを主対象とするかなど考える必要はなく、対象は絞らずに進める
 - ✓ ただし、一般企業の場合、個別性が高いため纏まりにくいという側面がありそう
 - ✓ 個別企業のBCPとは別に、「地域BCP」のような概念がありそう
 - ✓ 活動成果は、WG3としてのBCPに対する“提言”で良いのではないかと → 『実効性のあるBCPとするために（仮称）』

・本小委員会の活動期間は2ヵ年となっているが、当面のターゲットは2009年9月に予定されている土木学会年次大会において研究討論会を開催することであることが確認された。それを前提にWG3の作業項目とスケジュール（目安）を以下のとおりとすることとした。なお、①と②は同時進行とするものとし、②問題点の抽出については、まず、WGメンバーを中心に個々に意見を出し合うものとする。

- | | |
|-------------|----------|
| ① 文献類の調査・整理 | ～2009年3月 |
| ② 問題点の抽出 | ～2009年5月 |
| ③ 提言の検討 | ～2009年9月 |
| ④ 報告書取り纏め | ～2010年9月 |

・上記①の文献調査シートのフォーマットについては、WG3 幹事がたたき台を用意し、メンバーからのコメントを反映した上で確定する。

・その上で、文献調査に関しては大林委員にご相談し指導を仰ぐ（時期は11月下旬頃、これをWG3としての第2回WGとすることも視野に入れる）。

・2009年2月27日に予定されている第2回小委員会において上記①の進捗状況を報告することとなるため、そのための事前確認を主議題として第3回WGを2009年2月中旬頃に開催する。

以上 （記録：広中）